

平成 25 年度山野学苑事業報告

はじめに

学校法人山野学苑は、わが国の美容界の先駆者として発展を念願しつつ、「髪・顔・装い・精神美・健康美」からなる「美道」を建学の精神として、美しく装うことの素晴らしさ、自分に負けない精神力、健康であることの美しさを教え、実践してきました。

平成 25 年度は、理事長に山野愛子ジェーン先生が昇格就任され、山野正義理事長は二代目総長に就任しました。山野愛子初代校長が確立した「美道」は、山野正義総長が「美容福祉」へと発展させ、さらに美容界で初めてジェロントロジー教育に挑戦しています。

山野愛子ジェーン新理事長は、就任に当たり、こうした実績を踏まえて、次の三つについて訓示されました。一つ目は、スマイルを忘れないこと。教職員自身が生き生きと輝いている学苑にしていけば、必ず学生に反映する。二つ目は、学生に対して、学校は仕事場という意識と態度を常に求めると共に教職員も心がけてきれいな教室で楽しく、時には厳しく教え学ぶこと。三つ目はマナー。きちんとしたマナーを身につけるには、教員自身が積極的に交流すること。そして感謝の気持ちを表す「ありがとう」の言葉が自然に出てくるようにと要望されるとともに決意を述べられました。

以下、各学校の主な事業活動についてご報告します。

《短期大学》

平成 25 年度は、美容総合学科に改組して 3 年目でした。

引き続き美容デザイン専攻、総合エステティック専攻、国際美容コミュニケーション専攻、現代美容福祉専攻の 4 専攻、そして学士取得可能な専攻科芸術専攻で運営してまいりました。

1 各専攻の特色

(1) 美容デザイン専攻

美容師の国家資格取得を目指す専攻です。トータルな美容技術を修得するとともに教養も身に付けて、美容界のリーダーとなるような人材の育成を目指します。

(2) 総合エステティック専攻

エステティック技術を中心に学びますが、メイクや着装技術、ネイルなど美容関連の技術も修得し、総合力を持つエステティシャンを目指します。

(3) 国際美容コミュニケーション専攻

グローバルな人材育成が叫ばれる中、必須とも言える英語力を身につけ、同時に美容関連技術も修得して、海外も視野に入れた美容業界での活躍を目指す専攻です。

(4) 現代美容福祉専攻

介護福祉士の資格取得を目指す専攻です。山野学苑が培ってきた美容福祉を継

承する意味で美容関連技術の修得を含め、福祉分野で美容の力を発揮できる人材を育成します。

介護福祉士養成コースとして、ハローワークと東京都が進めている「離職者等再就職訓練」制度の養成施設としての認定を受け、22名の社会人が入学しました。

2 卒業後の進路

(1) 美容デザイン専攻

短大の特徴として就職の多様化が挙げられます。ヘアサロン就職は初年度の56%から増えて68%に、その他の美容系サロンが13%から10%に、一般企業は変わらず9%、進学は7%、留学が2%、そのほかです。

(2) 総合エステティック専攻

エステサロン就職が91%、その他の美容系サロンが3%、留学が6%です。

(3) 国際美容コミュニケーション専攻

化粧品関連を中心にアパレルなどの一般企業が昨年の53%から55%に、その他の美容系サロンが24%から27%に、ほか留学18%です。

(4) 現代美容福祉専攻

福祉施設への就職が60%、エステサロンが20%、その他が20%です。

3 キャリアサポート

(1) ゼミナール

4年制大学で開講されるゼミナールとは専門分野に特化した内容を扱うものですが、短大では、キャリア支援や人間教育に柱を置いています。

短大独自のこの「ゼミナール」では、ホスピタリティ能力、コミュニケーション力等の社会人基礎力の育成を柱とし、少人数制の人間教育、キャリア教育をさらに充実させるべく取り組んできました。先の報告の通り、就職先の多様化もゼミ主導で行った学生指導の結果です。

(2) インターンシップ

ヘアサロン、エステサロン、ネイルサロン、ブライダル企業、一般企業など就職の多様化を意識できるよう、協力企業の開拓を進めてまいりました。1年次の夏と2年への進級直前の3月、2週間から1ヶ月ほどのインターンシップで現場力を体感すると同時に社会人としての意識付けをねらいます。制度をスタートさせた23年度は全体で35社、24年度は42社、そして25年度が75社となり多くの学生に現場の体験の場を作ってきました。

(3) キャリア支援センター

キャリア支援センターは、ゼミ担当教諭と密接な連携を図りながら、就職先の開拓、インターンシップ先の開拓も進めて提携先を増やし、学生にとって有効で且つホットな情報の提供に努めると同時に企業説明会等を実施しています。

4 課外活動

美容という特徴を活かした地域活動、地域貢献等の活動は、社会で高く評価されてきました。学生ボランティア活動の積極的な参加をはじめ、教員としてはボランティアの引率・指導の他に、市民講座における各種講演や、化粧法の講習会、研修などを可能な限り実践してきました。

(1) 地域密着型の活動

八王子まつり、民生委員会、いちょう塾公開講座、柚木フラワーフェスティバル、学生天国、など。

(2) グローバルな取り組み

アメリカンスクールインジャパン、Tokyo International Players、西町インターナショナルスクールなどでのヘアメイク、着付け、お茶体験。

(3) 施設への訪問

介護施設等へ訪問し、ネイル、ハンドマッサージ、メイク等の施術。

5 卒業後

同窓会の組織作りの見直しを開始し、同期生の組織作りの充実を図ることを第一としました。昨年より早い段階で同期会の開催を考えてきましたが、25年7月30日に3月に卒業した20期生の同期会を実施しました。社会人としてのスタートを切った間もない開催を実行したのは、すぐに疎遠になってしまわないように、早く組織を作ること狙ったためです。しかしながら、卒業後4か月では懐かしさもさほどないため参加数は23名で卒業生の11%に留まりました。これを参考にして今後の開催について検討を加え、組織作り、学校との関係性強化を図ります。

《美容専門学校》

山野美容専門学校は、昭和9年に山野美容講習所として創設されました。以来79年間にわたり初代山野愛子先生が提唱した美道を基本理念として、美容界のため豊かな発想と美的感覚を備えた美容師の養成に努めてきました。近年、美に対する個人の意識が多様化し、また、社会の変革に伴って美容師に対する要望も高度化してきました。特に、これからの高齢社会においては、美容福祉の重要性を自覚し、福祉についても基本的な知識・技術を学び、人のため癒しの気持ちを施すことができる思いやりと愛の心を備えた美容師を養成することが望まれます。このため、アメリカの南カリフォルニア大学と提携して、日本では東京大学と本校だけでしか学べない学際的学問であるジェロントロジー教育を開始しました。

このような基本的な考え方を具現化した主要な取り組みは次のとおりです。

(1) 教員の教育力の向上

グローバル化された美容業界で活躍できる美容師を養成するためには、教員自らの知識・技術・指導力の向上が不可欠です。そのため、適宜、教員研修を行い各自のスキルアップ、ティーチングスキルアップを目指しています。

*平成25年8月 全国理容師美容師養成施設教職員研修会参加（札幌・4名）

*平成25年11月 東京地区理容師美容師養成施設教職員研修会（箱根・5名）

*平成25年12月 年末教員研修（校内・4日間）

・精神美授業（負けない授業）実行のための研修（校内）

・国歌試験課題カット 研修（校内）

・学課試験への取り組み 研修（校内）

*その他、コース・チームごとに研修を行っています。

(2) カリキュラムの改善

2年間という短い時間の中で学生のビジョンを形にしていくためのカリキュラムとして、基礎的な技術を学ぶ基礎プロコース、プロの現場にも役立つ技術や意識、対応力を身につけていくテクニカルプロコース、そして国家試験の全員合格を目指しています。

「この授業は今の自分に必要ない」、又は、「自分が目指しているプロに近づけな

い」などの学生にストレスをかけない対策として、学生自身が興味のある科目を選ぶカリキュラムとしました。

① カリキュラム You (専門課程)

プログラムを学生が自分で決断し、選択する。このカリキュラムの特徴をさらに進化させました。これにより185通りの選択ができるようになりました。また学生からの授業評価により授業改善をするシステムとしました。

平成26年度から本格的に稼働させる「精神美」の授業導入に向けて、担当講師の選定や授業方法等を検討しました。特別課目の演習として、1年生1学期に20時間を行います。

* 基礎プロ2、4つのプログラムから2つ選択 → 5つのプログラムから3つ選択できるようにしました。

* テクニカルプロ、6つのプログラムから3つ選択 → 7つのプログラムから3つ選択できるようにしました。

② カリキュラム LIVE (高等課程)

高等課独自のカリキュラムとしました。学生はそれぞれのサロンの情熱を感じながら受講しています。なお、学生の授業評価の意見も参考に、担当サロンや担当講師の入れ替えを行い、質の向上を図っています。

* 現場で活躍しているトップスタイリストが実習授業を受け持つ。

* 20以上のトップサロンが授業を担当した。

* 2年間の実習時間の35%がサロン授業とした。

* 現場の雰囲気を感じられる授業をおこなった。

(3) 学生サービスの向上

① 環境の整備

学生生活の中で気付いた不満や理不尽な出来事、また、こうしたらもっと良くなるといったアイデアなどを聞くため、ご意見箱を設置し、投書を受理したら速やかに事務局長が真摯に回答する体制を整えその対応に当たりました。

② キャリア支援

就職指導については、伝統と21万人の卒業生を世界の美容界へ送り込んだ実績によって、卒業生数を大幅に上回る900社9,000人の求人数がありました。また、カリキュラムに沿った新たな企業等の開拓にも取り組んでいます。キャリア支援センターの書棚には、地域別に分類された「求人票」、サロン紹介のパンフレットが並び、インターネット用のパソコンを備えて、情報の収集、説明会等への参加登録を実施しています。

③ 人権の尊重

セクハラ・パワハラについては、学生・教員・職員が個人として尊重され、お互いの信頼をもとに教学に専念できる環境を作り、これを維持していくことを重要と考え「セクハラ・パワハラの防止等に関する規定」を制定し、いかなるセクハラ・パワハラも黙認されたり、見過ごされたりすることがないように取り組みました。

④ 社会人基礎力

学生には美容師として社会に出て活躍できる美容技術の基礎力とコミュニケーション能力やマナーを身につけ、教養を高め豊かな感性を磨いて、新しい時代のリーダーを目指して誇りと希望を胸に意義ある学生生活を送られるようにサポートをしました。

(4) 卒業生(校友会)とのネットワークの構築

昭和9年に創設され、79年間に及ぶ教育で21万人の卒業生が世界の美容界で活躍しています。卒業生への各種サービスの一環として、学校のホームページにイ

ベント等の情報の提供や就職先としての協力依頼等、また、卒業生相互の絆を更に強力なものにするためのネットワークの拡充に努力しました。

(5) 経営基盤の強化

少子化・価値観の多様化等による入学者の激減により、概算において難しい状況に直面しましたが、迅速な対応で基盤的経費を確保すると共に震災特別学費支援制度を継続して、被災された方で学力優秀・品行方正の希望と素養のある生徒に対して、学費の免除を行う等学業に専念できる環境を整えました。

《医療専門学校》

平成 25 年度は山野医療専門学校第 4 代目校長に就任した山野一美ティナ校長のもと、山野学苑の建学の精神を念頭に置き、社会において人間がより人間らしく幸福に生きるための心身の健康を追求し、美道の精神を根拠とする教育を実践することにより、社会に貢献できる柔道整復師の育成に取り組みました。

1. 教職員体制の刷新・増強・充実：

職制を明確にすると共に、副校長、教頭、学科長、事務局長、事務課長による定例会議を実施し、教育部門と事務部門との情報の共有化を図り、学校事業遂行の連携強化と円滑な学校運営を行ないました。

2. 国家試験；

平成 25 年度の柔道整復師国家試験合格率は、総合で 50.6%（全国平均 75.3%）、新卒で 74.4%（同 91.3%）でした。

3. キャリア支援の確立と強化：

キャリア支援は、夏休みを利用しての 1 年生が卒業生および在校生の開業施設を体験訪問する仕組みをその一環に組み込み、インターンシップ制度の活動の活性化に取り組みました。

4. 定員の確保：

平成 25 年度の入学者数は、37 名と定員を大きく下回る大変厳しい結果となった。コース別には、開設以来、毎年の入学者数が 5 名前後を推移した午後コースには変化がなく、午前コースの激減となりました。

5. カリキュラム、時間割の改定：

カリキュラムは、科目間の連係に重点を置いた編成とし、基礎科目を「美容柔整 I～IV」、専門基礎科目を「人体の構造と機能 I～V」、「疾病と障害 I～V」、「保険医療福祉 I～III」、専門科目を「基礎柔道整復学 I～III」、「臨床柔道整復学 I～III」、「柔道整復実技 I～VII」とする新カリキュラムを開始しました。

6. 授業方法の研修：

授業方法の研修は、実技実習の動画教材作成を題材とした FD/SD 研修を行い、今後の新しい授業形態である「タブレット端末利用による授業運営の充実化を図る取組」に着手しました。

7. 楽しい学校生活づくり：

学校生活作づくりは、部活・課外活動・クラス会、遠足などを企画、実施することにより、教職員、生徒との一体化が図れました。

8. 規律ある学校生活の徹底：

医療人を目指すにふさわしい身なり、言動がとれるように指導することも重要な教育課題であり、クラス担任制度を活用して、生活指導を行ないました。

9. 課外授業、課外活動の充実：

特色ある学校づくりとしてカリキュラム外教育の充実に取り組み、以下の活動を実施しました。

- (1) 高齢者転倒予防の研究
- (2) 肩こりに対するミズメザクラエッセンシャルオイルの効果についての研究
- (3) バーベキュー大会
- (4) 北区（東京都）、その他への柔道大会参加

10. 各種資格取得のための講座拡充：

卒業後の活動のための基盤づくりを目的に、「登録販売者」、「アロマセラピー検定」、「インソール取扱い認定」の講座を継続的に開講しています。

11. 「美容柔整」概念の具体化：

平成 25 年度から美容柔整の科目を体系化し、新カリキュラムをスタートしました。新カリキュラムでは、初年度は美しい姿勢についての客観的評価と自らの美しい姿勢づくりに重点を置き、美容柔整としての基礎を教育してきました。

〈今後の課題〉

1. 教員体制の刷新・増強・充実：

学校事業遂行の連携強化と円滑な学校運営に努めるために、更にコミュニケーションの充実を図り、「報告、連絡、相談」の基本を実践すると同時に、新しいことに積極的に取り組みます。

2. 国家試験：

国家試験合格率を上げることが最大の課題であり、新卒生・既卒生・在校生を区別した対応を、体系的かつ計画的に行ないます。

3. キャリア支援の確立と強化：

キャリア支援は、卒業生との関係による支援のあり方が重要となります。同窓会組織との連携をとりながら展開し、学校を中心とした卒業生、在校生のネットワークの構築、維持、活動の活性化に取り組みます。

4. 入学定員の確保

広報・生徒募集活動、オープンキャンパスについて活動内容を検証し、要因分析に基づく実効的な活動により、入学定員の確保に努めます。

5. カリキュラム、時間割の改定：

カリキュラムの編成は、学校を特色つける重要な要素となる。定期的カリキュラムの実施状況について、実態調査を行い、授業科目、授業内容、科目間の連携などについて分析し、問題点の迅速な解決と改善に取り組みます。

6. 授業方法の研修：

SD/FD 研修を通しての教授法の研修、生徒指導の研修、および教材の研究開発に取り組み、学習意欲の向上と教育の均一性の確立に取り組みます。

7. 楽しい学校生活づくり：

学校を楽しく勉強する場とするために、クラス会、部活、課外活動、スポーツ大会、遠足、季節ごとの行事など、生徒および教職員が積極的に企画、実践します。また、同窓会組織との連携をとりながら、卒業生との交流の機会も積極的に行ないます。

8. 規律ある学校生活の徹底：

医療人を目指すにふさわしい身なり、言動がとれるように日々、学校での生活指導を徹底し、生徒として、社会人としての自覚を積極的に促していきます。

9. 課外授業、課外活動の充実：

新カリキュラムで体系化した美容柔整の関連技術に加え、独立開業に向けた実践的な知識や技術に関する課外講座、および課外活動を積極的に企画、実施していき

ます。

10. 各種資格取得のための講座充実：

付加価値として卒業後、柔道整復師としての活動基盤を作るために有効となる資格取得講座の拡充を図ります。

11. 「美容柔整」概念の具体化：

柔道整復師の手技療法に有効に活かすことができる知識と技術を、学校教育を通して「美容柔整」を修得させる。また、資格として認定できる組織・機構の準備を進めます。

12. 職業実践専門課程の認定申請：

文部科学省が平成25年度からスタートした「職業実践専門課程の認定」に向けて、申請の準備を開始します。

《日本語学校》

1. 学校の概要

(1) 設置コース

コース名	入学時期	定員
大学進学準備教育1年コース	4月	100名
大学進学準備教育1年半コース	10月	110名
日本語一般1年コース	4月	100名

(2) 教職員数

	専任	非常勤
教員	8人	24人
職員	2人	2人

(3) 生徒数

コース名	生徒数	定員充足率
大学進学準備教育1年コース	126人	126%
大学進学準備教育1年半コース	190人	173%
日本語一般1年コース	24人	24%

(4) 生徒数（地域別）

中国	韓国	ベトナム	他	計
55%	9%	28%	8%	100%

2. 事業の概要

- (1) 山野日本語学校はわが国の大学、専門学校へ進学するための日本語教育及び基礎教育を行う、大学進学準備教育1年コース及び大学進学準備教育1年半コースとわが国の大学、専門学校への進学するための日本語教育を行う日本語一般1年コースを設置しています。

日本語能力試験(N2以上)の状況(日本語)

	5月	11月	計
受験者数	45人	37人	82人
認定者数	25人	19人	44人

進学状況

学院	大学	短期大学	専修学校
6人(12)	17人(16)	11人(2)	54人(46)

() カッコ内は昨年

※ 主な進学先

大学院：明治大学、横浜国立大学、国学院大学、首都大学東京、城西大学

大 学：学習院大学、青山大学、目白大学、専修大学、上智大学、東京基督教大学、国士舘大学、東京工芸大学、麗澤(れいたく)大学、立正大学、武蔵野大学、中央学院大学、東京国際大学

ベトナムをはじめとする非漢字圏の学生が30%を超えたことで、進学先にも変化が現れました。大学院への進学者は減り、専修学校への進学者が増加しました。

- (2) 日本語教育のみならず、日本の文化や風習、日本人の考え方を理解することも重要視し、同学苑内の山野美容芸術短期大学、山野美容専門学校、山野医療専門学校と積極的に交流を行ないました。

山野美容芸術短期大学での留学生交流会に参加し、先輩留学生から見た、日本の文化や風習を知りました。

また、山野美容専門学校、山野医療専門学校とは合同の学苑祭、ハッピーランチを行うなど、直接、日本人との共同の作業を行うことで日本人に対する理解を深めました。

- (3) 昨年度の課題であった、非漢字圏と漢字圏により、授業進度が大きく違うことに対する対応が十分におこなうことができませんでした。次年度は非漢字圏については、漢字圏以上に選考基準を厳しくすることとしました。
- (4) 学生募集においては、非漢字圏の選考基準を厳しくし入学者数を減らし、代わりに中国の学生を増やしたことにより、中国学生の比率が50%を超えることとなりました。学生募集におけるリスク分散の意味で問題があり、来年度以降の課題となりました。